

「飯舘村スタディツアーについて」

国際交流学科 3年 NH

1. はじめに

私は2016年6月11・12日に飯舘村にスタディツアーとして初めて訪れた。私は環境学について少し興味があり、高雄先生のゼミに入ることになった。そこで2011年東日本大震災の際に原子力発電所が水素爆発を起こし、放射能被害を受け避難している飯舘村のこと、再生に向けた取り組みがなされていることを知った。ゼミでの学習や実際に去年、飯舘村に行った先輩方の話を聞き、飯舘村や福島再生に向けて私も学びたい、知りたいと思うようになり今回のスタディツアーに参加しようと思った。

2. 飯舘村の現状

まず福島駅についたとき、初めて訪れる土地に少し高揚していた。福島駅やその周辺は人も沢山いて関東で見る風景のように感じた。だがレンタカーで飯舘村に近づいていく中で人は徐々に少なくなり、汚染物質をつめたフレコンバッグの黒い袋を多く見かけるようになった。ニュースなどのメディア報道で開けた土地にきれいに山積みされている映像を目にしたことがある。確かにきれいに整列し山積みされているフレコンバッグも多くあったが、所々では2〜3個程がまとまって雑に置いてあるものや家のすぐ近くに置いてあるものもあった。これがゼミで学んだ「仮置き場」であるということ目で見えて痛感した。

飯舘村に入り人の少なさに驚いた。菅野さんのお宅に到着し、除染作業車や作業員以外の人々を初めて見たように感じた。私は放射線についてよく知らない。テレビから流れてくる「〇〇に放射線量確認」や「放射線で発がん」などマイナスイメージを上げるようなものばかりが記憶に残っているため、放射線に対してはただただ危険であるというイメージが強かった。だが飯舘村を訪れる前、ゼミの授業で飯舘村の放射線量の低さについては学んでいたため危険というイメージは薄れていた。そのため暮らすことはまだ出来ないけれど、一時的に村に戻ってきている人々はあるだろうと勝手に思っていた。だが、私の想像以上に飯舘村には人がいなかった。村に帰って来る村民は100人程度、それに対して除染作業員は5000人程度であると菅野さんは仰っていた。これは50倍もの差がある。飯舘村は村民ではなく村民外の人々が集まる場所となってしまっていた。

菅野さんのお宅で飯舘村の原発前とその後のこと、東大の溝口先生の放射線についてのお話を聞いた。前に述べたように私は放射線について危険、目に見えない怖いものというイメージが強かった。だが、私たちが普段食べている食事にも必ずしも放射線がないとは限らないし、飛行機に乗るほうがより高い放射線を浴びることを知った。たしかに原発直後の福島の野菜などの放射線量は高かったかもしれない。だが私たちの情報はそこで止まってしまっていて、身近にあるそれよりも高い放射線量のものの存在に気がついていないことがわかった。

昼食後から夕方にかけての数時間で飯舘村の様々な場所を案内して頂き、様々なことを知り、見る事ができた。その移動の車の中からは変わり果てた農地を多く見かけた。汚染された農地を除染した後、農業に不向きな砂を上にかくために砂漠化のようになってしまう。これでは飯舘村の農家の人々は村に戻ってきたときに何を職に生活していけばいいのか。政府は除染が目的なだけであり、その後の村民の生活のことを考えていないことがわかった。そしてフレコンバッグの問題。飯舘村の農地800ヘクタール中300ヘクタールもの土地がフレコンバッグの仮置き場になっている。この問題も解決すべきであると感じる。

3. おわりに

今回のスタディツアーを通して学べたことが沢山あった。私たちは普段、メディア情報に依存している。だがそれが原因となり私たちは限られた情報しか知らない、固定概念の形成などにつながっている。今回のスタディツアーでそれを実感することが出来た。私はゼミで学び、そして実際に飯舘村に行き、放射線、福島の野菜、飯舘村の避難解除などに対する考え方が大

大きく変わった。

一般的には5年前の衝撃的な事故、そしてメディア報道の過熱の影響から福島に対する危険認識が今でも続いている。この気持ちは福島の再生の妨げになるだろう。だが、実際には放射線量も低く、私たちの普段の生活の方がより強い放射線を受ける場合もあるほどである。そして避難指示解除について。飯舘村やその近隣の人々意外はこのことを祝福するだろう。私も飯舘村に行くまでは5年もかかってやっと帰ることが出来る。これで村民の住み慣れた暮らしに戻ることが出来る。このように考えていた。だが原発事故により汚染された土地を除染するために未だに放置されているフレコンバッグの山々、そして砂漠化してしまった農地。これほどのようにして飯舘村の人々は原発事故前の生活を取り戻すことが出来るのだろうか。私たちはこのような飯舘村の現状を知らない、知る機会が少ないのである。メディアがこのようなことを発信してくれなければ、日本中、世界中の人々はこれを知る機会が得られない。

私たちは今回飯舘村に行く機会を頂き、実際に目で見て、現地の人々の話しを聞くことが出来た。この問題は福島だけの問題ではない。私たちが今の福島の現状を知らなければ、危機感を感じて対策を考えなければ更なる人的な環境破壊を起しかねない。これを知ってもらうためには現代のSNS時代で私たちが見て知った現実を発信し、多くの人々に知ってもらうことが大事ではないかと考える。私は今回学んだことを多くの人々に知ってもらいたいし、福島に対する危険認識を少しでも減らしたい。これはボランティア精神というものではなく、今後の日本や世界の存続のために私たち地球市民が取り組むべき問題であると考えているからである。

最後に、今回のスタディツアーを開催するにあたり協力して下さった、菅野さんをはじめとするふくしま再生の会のみなさん、大久保さん、溝口先生その他のみなさんに感謝したい。福島から遠く離れた横浜の女子大生に丁寧に一から飯舘村の状況をお話になった。被災したこと、原発事故の被害のことなど話したくないと思う人々も多い中で菅野さんたちは私たちに知る機会を与えて下さった。これは事故を話題にすることで問題解決につながるというお考えからであると仰っていた。私は菅野さんのこの想いを聞き、そして飯舘村のスタディツアーを通して私自身も問題意識を持って考え行動していきたいと思った。